

### 「技術人材」連携 相乗効果を報告

宇都宮でシンポ

宇都宮大と県産業技術センターが昨年9月に締結した研究開発や人材育成に関する連携協定に基づく初のイベント「技術人材ジョイントシンポジウム」が14日、宇都宮市ゆいの杜1丁目の同センターで開催された。試験や分析などの装置のオペレーションを担う両者の技術職員など約60人が参加。連携による相乗効果な

大学と公的研究機関の技術職員の連携強化について考えたシンポジウム14日、宇都宮市



どについて理解を深めた。群馬大の林史夫准教授が特別講演し、群馬県で行われている同様の連携につ

いて報告。装置・機器の共用化や企業からの分析受託業務のすみ分けを挙げ「効果的な運用や情報共有により受託収入は伸び、装置更新などに使われるなど好循環につながっている」と述べた。

宇都宮大の松本太輝准教授も講演し、連携は「現有的教育研究支援リソースの能力をさらに強化できる」と説明。同センターの伊藤繁則副所長は「類似分野の職員同士の情報共有や意見交換が図られ、地域課題解決へ貢献できる」と強調した。